

2030年の科学技術大予想

2009

編集にあたって

編集チームリーダー 山本浩治

新年を迎えるとその節目で新しいチャレンジや目標を自然な流れで考えることもあるし、またそのような機会を積極的に作ることも多い。我々が新年という新しい可能性に期待を持っていることの現れであり、また、考えることがきっかけで意欲や元気や希望が出てくることへの期待もあろう。新しいことや将来を想像することは、何か力の源泉にもなり、わくわくする楽しいことである。

将来を想像することは楽しいことではあるが、一方で、そればかりを考えているわけにもいかない。我々には、例えば会社での研究開発などの業務や大学での授業など、日々こなすべき具体的な仕事が目の前に積み重なっているからである。限られた時間でこれらの仕事をこなすには、どんな段取りで、だれと相談し、結果についてはどのようにまとめ、報告するのかを日々考えて過ごしている。将来の夢みたいなおことばかり考えていると、会社などでは相手にしてもらえない恐れもある。

しかし、たまには遠い将来のことも考えてみてもよいかもしれない。新年を迎えてこの特別小特集は、その機会でもある。今回の将来のスコープは、特別小特集のタイトルにある2030年というように、20年以上先としている。予想するのであれば、10年先というよりは、一気に20年先を想像する企画をとの思いが編集チームにあったからである。

ちょっと横道にそれるが、少し前のインターネットでのアンケートの結果を紹介したい。そのアンケート調査は、「10年前の自分から見て今のスゴイコトは？」というような問い掛けに対する回答をまとめたものであった(ビジネスI, 2008年5月25日)。回答が多かったものから挙げると、①携帯電話が当たり前になった、②テ

レビが薄くなった、③どこでもインターネットができる、④ビデオテープを使わなくなった、⑤フロッピーディスクを使わなくなった、⑥電子マネーの普及、⑦携帯電話で電子メールが送れる、などが挙げられていた。今から10年前を振り返って、大きく変わったことをピックアップしたことに相当していると解釈できる。10年間ほどの期間で、結構変わったこともあると感じる方も多いのではなかろうか。変わらないものもたくさんあると思うが、10年という時間のレンジを少し感覚的につかめるような結果である。

今回の特別小特集では、その倍の20年先を大胆に予想することがテーマである。様々な分野の方からの御寄稿を得ることができ、感謝している。私自身が、「2030年の科学技術大予想」をひそかに、考えてみたが、今回の特別小特集は、私の想像をはるかに越えるものであり、大変、驚いている。内容的には、科学技術そのものの大予想だけでなく、2030年の日本の様子などが描かれており、興味深い内容になっている。また、様々な意見があることにも、驚かされる。読者の皆さんも、正月気分「2030年の科学技術大予想」をされてみては、いかがでしょうか。

予測をするということは、将来のことだけを考えるのではなく、現状の確認をしたり、過去の経緯や流れを整理したり再認識することも含むであろうし、場合によっては表裏一体の関係も存在しよう。この特別小特集が、皆さんの将来だけでなく、現状の課題などに関しても、何かお役に立てるようであれば幸いです。

最後に、御多忙中にもかかわらず原稿執筆を快諾して頂いた執筆者の皆様、並びに事務局の皆様、編集チーム一同御礼申し上げます。

特別小特集	山本 浩治	趙 晋輝	塩本 公平
編集チーム	檜枝 護重	苗村 昌秀	